

# 「いわて県民計画（2019～2028）」 第1期アクションプランの 進捗状況について

## 4 幅広い分野の文化芸術に親しみ、生涯を通じてスポーツを楽しむ機会を広げます

課 題	今後の方向
<b>① ライフステージに応じたスポーツを楽しむ機会の充実</b>	
ラグビーワールドカップ 2019™や東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の開催等を通じ、県民のスポーツへの関心が高まっている一方、働く世代のスポーツ実施率が低い傾向にあります。	若年期から高齢期までのライフステージに応じたスポーツを楽しむ機会の充実を図るため、クラブ育成アドバイザーの指導・助言により、身近な地域でスポーツ活動を推進する総合型地域スポーツクラブの活性化に取り組みます。
<b>② 障がい者スポーツへの参加機会の充実</b>	
障がい者スポーツへの参加機会を充実させるため、障がい者スポーツを支える組織の強化・充実が必要です。	県域と各市町村に設置した障がい者スポーツを支える組織を核として、スポーツ大会やスポーツ教室の実施などにより、障がい者スポーツの身近な地域での普及・拡大に取り組みます。
<b>③ 岩手発の「超人スポーツ」の創出等によるスポーツ参加機会の拡大</b>	
年齢や身体能力、障がいの有無等に関わらず県民一人ひとりがスポーツに取り組む環境づくりを目指していますが、障がいのある人もない人も共にスポーツを楽しむ機会は必ずしも多くない状況です。	年齢や身体能力、障がいの有無等に関わらずスポーツを楽しむツールの一つとして有望な、「超人スポーツ」について、ワークショップの開催や新たな超人スポーツの創出などにより、共に楽しめるスポーツの普及・拡大を図ります。
<b>総 括</b>	
以上のことから、県民誰もが各々の年代、関心、適性等に応じて日常的にスポーツを楽しむ機会の充実を図るため、総合型スポーツクラブや関係団体と連携し、スポーツ・レクリエーションや「超人スポーツ」などの普及・促進に取り組みます。	
<b>反映結果</b>	
<b>&lt;既存事業の拡充&gt;</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● ライフステージに応じたスポーツを楽しむ機会の充実を図るため、「生涯スポーツ推進費（地域スポーツ推進事業）（R2 予算 3.8 百万円）」を拡充し、総合型スポーツクラブの育成や指導者養成を行うとともに、中学生の部活動のあり方の研究を進めるための調査を実施します。</li> <li>● スポーツを楽しむ環境を整備するため、「スポーツ施設設備整備費（盛岡南公園野球場（仮称）整備事業費）（R2 予算 86 百万円）」を拡充し、盛岡市と共同で実施する新野球場の整備などを進めます。</li> <li>● 障がい者スポーツへの参加機会を充実させるため、障がいのある人もない人も共にスポーツを楽しむ機会の充実を図る必要があることから、「スポーツを通じた共生社会づくり推進費（R2 予算 6.3 百万円）」を拡充します。</li> <li>● 本県選手の競技力向上と県民の健康増進を図るため、「スポーツ医・科学サポート事業費【再掲】（R2 予算 29 百万円）」を拡充し、「いわてアスレティックトレーナー」の養成、障がい者アスリートへのトレーナー派遣を強化します。</li> </ul>	
<b>&lt;その他取組の改善強化等&gt;</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「超人スポーツ」の普及・拡大を図るため、取組内容の見直しを図りながら、ワークショップの開催による新たな競技の創出や普及・拡大を図ります。</li> <li>● スポーツ医・科学の知見を生かした健康づくりや競技力向上等を図るため、官民一体のスポーツ推進体制「いわてスポーツ推進プラットフォーム」の令和 2 年度中の体制構築を目指します。</li> </ul>	

## 13 【体育】児童生徒の健やかな体を育みます

課 題	今後の方向
<p>① 豊かなスポーツライフに向けた学校体育の充実</p>	
<p>体力の向上と健康の保持増進のため、運動やスポーツが苦手な児童生徒や意欲的に取り組めないでいる児童生徒に、運動やスポーツへの興味・関心を持たせることが必要です。</p>	<p>運動（遊び）やスポーツに親しむ習慣を身に付けさせるため、学校・家庭・地域が連携・協働し「希望郷いわて 元気・体力アップ 60 運動」などを推進します。</p> <p>また、児童生徒がスポーツの意義や価値を学び、スポーツへの興味・関心を一層深められるよう、体育授業の改善などに取り組みます。</p>
<p>② 適切な部活動体制の推進</p>	
<p>「適切な部活動体制の推進」を図っていくためには、部活動の活動方針について、学校、保護者、外部指導者等が共通理解を図っていくことが必要です。</p>	<p>「部活動の在り方に関する方針」を踏まえ、指導者研修会の実施や、学校、保護者、外部指導者等の共通理解を醸成するなど、望ましい部活動の実現に取り組みます。</p>
<p>③ 健康教育の充実</p>	
<p>本県では、全国に比較し小中学生で肥満傾向児の出現率が高いことから、生活習慣病など健康リスクを未然に防止するため、低年齢から自ら考え判断できる力を養っていくことが必要です。</p>	<p>生涯にわたって健康的な生活を送るために必要な力の育成に向け、学校・家庭・地域が連携・協働し、肥満要因の分析による個別指導モデルの実践等により健康の保持増進への理解を深める取組を実施します。</p>
<p>総 括</p>	
<p>以上のことから、児童生徒の健やかな体を育む教育の推進のため、運動に親しむ資質・能力や、健康に関する正しい知識に基づき自ら判断できる力を身に付けることができるよう、学校体育の充実、適切な部活動体制の推進及び健康教育の充実に取り組みます。</p>	
<p>反映結果</p>	
<p>&lt;新規事業の創設&gt;</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 中学生の望ましい部活動等の在り方について検討するため、「中学生スポーツ・文化活動調査事業費（R2 予算 1 百万円）を創設し、県教育委員会、関係団体及び有識者による研究会を設置します。</li> </ul>	
<p>&lt;既存事業の拡充&gt;</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 部活動の質的向上や教員の負担軽減のため、部活動指導員が未配置の市町村教育委員会や県立学校に対して制度の理解と活用の促進を図るとともに、「教職員人事管理費（部活動指導員配置事業）（R2 予算 73.2 百万円）」を拡充し、部活動指導員の配置を進めます。</li> </ul>	
<p>&lt;その他取組の改善強化等&gt;</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の開催は、運動やスポーツへの興味や関心を一層深められる機会であり、運動やスポーツの多様な楽しみ方を共有することができるよう、引き続き体育・保健体育事業の改善に取り組みます。</li> <li>● 生涯を通じて健康で活力ある生活を送ることができるよう、家庭や地域と連携し、健全な食生活と健康・命の大切さを教える学校保健活動などにより、児童生徒に基本的な生活習慣や健康に関する正しい知識を身に付けさせる取組を引き続き行います。</li> </ul>	

## 19 文化芸術・スポーツを担う人材を育てます

課 題	今後の方向
<b>① アスリートの競技力の向上</b>	
国際大会等で活躍するトップアスリートを育成するためには、日本オリンピック委員会等と連携した、中長期的な視点に立った育成や、日本代表や全国で上位入賞を目指す選手に対しての支援など、継続的な取組が必要です。	国体を含めた全国大会等で入賞するトップレベルの選手層の拡大を図るため、有能な人材を発掘・育成するスーパーキッズの取組に加え、中央競技団体等との連携強化やスポーツ医・科学の活用など中長期的な視点からの育成に取り組めます。
<b>② 障がい者アスリートの競技力の向上</b>	
障がい者アスリートの更なる発掘・育成や、介助者等を含めた競技活動をサポートするため、スポーツ医・科学に裏付けられた専門指導を受ける機会の充実を図る取組が必要です。	障がい者アスリートが参加する大会へのトレーナー派遣を実施し、障がい者アスリートの競技力の向上を図ります。 また、国体強化等のノウハウを障がい者アスリートの強化活動に波及させるため、各競技の指導者による巡回指導等に取り組めます。
<b>③ スポーツ医・科学サポートを通じた競技力の向上</b>	
本県アスリートのスポーツ医・科学サポートを通じた効果的な競技力の向上を図るため、最新のスポーツ医・科学に関する情報提供により、アスリートのセルフマネジメント能力の向上と指導者の知識・技術の底上げを図ることが必要です。	スポーツ医・科学の知見を有する大学教授等を招聘した各種講習会を実施し、スポーツ医・科学による選手個々のセルフマネジメント能力と指導者の一層の資質向上を図るほか、各競技団体で実施する強化練習会等でのスポーツ医・科学の知識習得を推進します。
<b>④ スポーツ活動を支える指導者等の養成</b>	
選手・指導者の知識・技術の底上げを図るため、アスレティックトレーナー等のアスリートや障がい者アスリートを支える人材の育成を含め、スポーツ医・科学の知見を活用したトップアスリートを支える環境整備などが必要です。	アスリートを支える人材の育成については、今後も「いわてアスレティックトレーナー」の養成に取り組んでいくとともに、女性トレーナーによるサポート活動の拡充やスポーツ・インテグリティの確保などに取り組めます。
<b>総 括</b>	
本県出身アスリートの活躍は、県民に希望と日々の活力を与えることから、優れた指導環境による中長期的な視点に立った育成とスポーツ医・科学の知見を活用した強化により、継続的なトップアスリートの輩出を目指すとともに、アスリートをサポートするアスレティックトレーナー等の指導者育成に取り組めます。	
<b>反映結果</b>	
<b>&lt;新規事業の創設&gt;</b>	
● 障がい者アスリートの発掘・育成を推進するため、障がい者アスリートの競技選択や活動機会の充実を図る必要があることから、「パラアスリート拡張支援事業費（R2 予算 5.4 百万円）」を創設します。	
<b>&lt;既存事業の拡充&gt;</b>	
● 国際大会で活躍するトップアスリートを更に育成していくため、本県トップアスリートの競技力向上に向けた活動支援を図る必要があることから、「オリンピック選手等育成・強化事業費（R2 予算 31.3 百万円）」及び「いわて競技力向上事業費（R2 予算 146 百万円）」を拡充します。	
● 本県選手の競技力向上と県民の健康増進を図るため、「スポーツ医・科学サポート事業費（R2 予算 29.3 百万円）」を拡充し、「いわてアスレティックトレーナー」の養成、障がい者アスリートへのトレーナー派遣を強化します。	
● ライフステージに応じたスポーツを楽しむ機会の充実を図るため、「生涯スポーツ推進費（地域スポーツ推進事業費）【再掲】（R2 予算 3.8 百万円）」を拡充し、総合型スポーツクラブの育成や指導者養成を行うとともに、中学生の部活動のあり方の研究を進めるための調査を実施します。	
<b>&lt;その他取組の改善強化等&gt;</b>	
● ジュニアを含めたアスリートの育成に携わる指導者の養成、資質向上に取り組めます。	
● スポーツ医・科学の知見を生かした健康づくりや競技力向上等を図るため、官民一体のスポーツ推進体制「いわてスポーツ推進プラットフォーム」の令和2年度中の体制構築を目指します。【再掲】	

## 26 文化芸術・スポーツを生かした地域をつくります

課 題	今後の方向
① スポーツを生かした人的・経済的な交流の推進	
<p>ラグビーワールドカップ 2019™ 釜石開催や、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた聖火リレー、事前キャンプ、ホストタウン等の取組を一過性のものとせず、スポーツによる人的・経済的な交流につなげていく取組が必要です。</p>	<p>多くの県民が、ラグビーワールドカップやオリンピック・パラリンピックの価値を共有できるよう、事前キャンプやホストタウンの取組を通じた国際交流の取組をはじめ、聖火リレー・聖火フェスティバルなどの広域的な取組を実施します。</p> <p>また、ラグビーワールドカップ終了後の釜石鶴住居復興スタジアムを活用したスポーツイベントの開催や、ラグビーワールドカップやオリンピック・パラリンピックを契機とした国際交流の継続的な取組、いわてスポーツコミッションを中心としたスポーツ大会・合宿の誘致、スポーツアクティビティの創出・普及等を通じて、スポーツを通じた人的・経済的交流の拡大などに取り組みます。</p>
<p><b>総 括</b></p>	
<p>以上のことから、ラグビーワールドカップ 2019™ や東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会を契機として、震災復興支援等による国内外のつながりを生かし、文化芸術・スポーツの振興のみならず、地域の活性化につなげる取組を継続的に推進していきます。</p>	
<p><b>反映結果</b></p>	
<p>＜新規事業の創設＞</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● ラグビーワールドカップ 2019™ 釜石開催を通じてつながった出場国等との新たな絆を活かし、ラグビーをはじめとする各種スポーツイベント等の開催を通じて、人的・経済的交流を推進するため、「ラグビー県いわて推進事業費（R2 予算 51.1 百万円）」を創設します。</li> </ul>	
<p>＜既存事業の拡充＞</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会を契機として地域の活性化につながる取組を推進するため、ホストタウン等交流事業の推進や、聖火リレー、聖火フェスティバルの安全・確実な実施に向けた準備・運営を行う必要があることから、「復興五輪ムーブメント推進事業費（R2 予算 372.4 百万円）」を拡充します。</li> <li>● スポーツを通じた地域活性化を推進するため、スポーツクライミングの拠点化を目指して整備した施設での大会や合宿等の誘致を進める必要があることから、「スポーツクライミング推進事業費（R2 予算 3.8 百万円）」を拡充します。</li> </ul>	
<p>＜その他取組の改善強化等＞</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の取組を通じ、スポーツによる人的・経済的交流を進めるため、令和元年度に設置した「オリンピック・パラリンピック推進室」による取組を進めます。</li> <li>● スポーツ医・科学の知見を生かした健康づくりや競技力向上等を図るため、官民一体のスポーツ推進体制「いわてスポーツ推進プラットフォーム」の令和 2 年度中の体制構築を目指します。【再掲】</li> </ul>	